

達磨の経済考

高野山真言宗慈明院名誉住職

吉住 明海

安保 徹 著マキノ出版
第三章 誤った治療が
ガンの治療を阻む

抗ガン剤治療、放射線治療、手術は医学の進歩に伴い、その目的を達成しつつあるような印象を私たちに与えます。しかし残念ながらこれらの治療法はリンパ球を破壊し、生体に消耗をもたらしてガンの治癒を阻む最大の原因になっているのです。

抗ガン剤はガンの細胞だけなく正常細胞も区別せずに殺してしまいます。抗ガン剤は増殖のスピードが速い細胞を殺傷するよう作られているため、細胞分裂が活発な骨髄で作られる血液細胞、消化器の細胞、毛根細胞など増殖が活発な細胞が格好のターゲットになります。いろいろな副作用が起ります。

初詣などで、神仏に何を祈るかという、アンケートでは、群を抜いて一番多いのは『家内安全』だったという調査報告が出ています。

『家内』とは、家中・屋内あるいは、家族という意味もあるが、他人に対する、自分の妻を言う事もある。普通、家内安全とは、家族に事故や病気のない・家族一同が息災でという願いである。

家族というものが、不安定なるがゆえに、こゝから『家内安全』を祈るのかも知れないと、評論家が指摘していくが、離婚が多いのも一因なのだろうか

アメリカが一組に一組が離婚し、日本は三組に一組だそうで、世界的にはロシアが一位でアメリカは四位だと・・・。家族を維持していくのも、大変な事である。

『四人の妻』という、お釈迦様の説話が伝えられています。

大昔は一夫多妻であつたから、金持ちほど多くの妻を持つていた。ある商人が四人の妻を持つており、第一夫人は、常に傍に置いて可愛がっていた。第二夫人は、他の者と争って奪つてくるくらいの絶世の美女、第三夫人は、時々会つくるで、会えばホツとする。第四夫人は、働き者でいつも働いてはいたが、その存在を忘れてしまうくらいであった。

ある時、商人は長い旅にでる事になつた。妻を一人連れて行こうとしたが、第一夫人はが嫌いです。第三夫人は、まあ、せめて町はずれまで見送りましょう。

第二夫人が私はあなたの妻ですから、何処までもお供します。と答えたという。

商人の旅は、死での旅であり、第一夫人とは、身体の事である。

第三夫人とは、親族です。時々会えば嬉しいし、商人が亡くなつたら悲しんでもくれるが、これも一緒に逝けない。第四夫人とは、自分の心である。

己の欲望や煩惱にまみれ働いているが、己自身を顧みないで、忘れているが、この心は、死んでも付いて行くものである。家内安全とは、心を忘れない事かも知れない

合掌

商品紹介

おなかいきいき健康法 ベーシックセット

「元気の元は胃腸から」、おなかの健康は病気予防の原点です。
「おなかいきいき健康法」のベーシックセットで、ストレスに負けないからだを作りましょう。



アルファルファ加工食品
ミネラルバランス食品
ミネラル・葉酸元素たっぷり
元祖元素



納豆菌加工食品
元氣なんきな

合計12,600円
(本体12,000円)

ガンは自分で治せる

安保 徹 著マキノ出版

第三章 誤った治療が
ガンの治療を阻む

満まん堂学術顧問
佐々木俊雄氏

抗がん剤は有効ですと言われたときの【有効】の真の意味はガンが縮小または消失することを言つてゐるのであつて、患者が平穩に生きる事です。

抗がん剤治療、放射線治療、手術は医学の進歩に伴い、その目的を達成しつつあるような印象を私たちに与えます。

しかし残念ながらこれらの治療法はリンパ球を破壊し、生体に消耗をもたらしてガンの治癒を阻む最大の原因になつてゐています。

抗がん剤はガンの細胞だけなく正常細胞も区別せずに殺してしまいます。抗がん剤は増殖のスピードが速い細胞を殺傷するよう作られているため、細胞分裂が活発な骨髄で作られる血液細胞、消化器の細胞、毛根細胞など増殖が活発な細胞が格好のターゲットになります。いろいろな副作用が起ります。

これは【クラッシュ・シンドローム】と呼ばれている現象で、大量に体の組織が破壊されると、交感神経が緊張して顆粒球が増え、

寿命を全うすると言う意味ではありません。ガンが小さくなつて治療は成功した、しかし患者さんは助からない。再発して必ず死に至るのです。

今日も抗がん剤治療の現状は変わつていません。抗がん剤治療は絶対に受けはいけないので、放射線治療はどんなに局所を狙つて照射してもその害は全身に及びます。局所への照射でもリンパ球は減少し始め、全身がダメージを受けます。

これは【クラッシュ・シンドローム】と呼ばれている現象で、大量に体の組織が破壊されると、交感神経が緊張して顆粒球が増え、

手術も原則的にしないほうが良いです。メスで取れる範囲は限界があり、目で見える病巣だけあり、他の臓器に転移したガンなど肉眼では見えないため取り残してしまって、又手術によつて他の組織にガン細胞が散つてしまふ恐れも残されているからです。

手術も原則的にしないほうが良いです。メスで取れる範囲は限界があり、目で見える病巣だけあり、他の臓器に転移したガンなど肉眼では見えないため取り残してしまって、又手術によつて他の組織にガン細胞が散つてしまふ恐れも残されているからです。

そのため患部から遠く離れた細胞まで壊死してしまいます。細胞まで壊死してしまいます。副作用は各臓器に及び様々な障害が現れます。放射線治療は受けべきではないと考えています。



*リンパ節の郭清
在しているかどうかを検査する手術手技



ぐるり全身で血流障害が起こり、生活に支障をきたします。免疫力も低下し再発も起こりやすくなるのです。

リンパ節の郭清も避けます。リンパ節は体液を循環させているリンパ管の合流箇所に当たり、外的の進入をチェックする関所のよう

なもので、リンパ節の郭清によって周囲の血管やリンパ管が傷ついて、血液や体液の循環が悪くなり全身で血流障害が起こり、生活に支障をきたします。摘出手術は絶対に受けてはいけません。

迫し苦痛があるときや、内臓の壁を突き破る恐れがあるときは手術が必要ですが、臓器を大きく切り取つてしまえば、臓器の働きが悪くなり生活の質が低下するので、臓器を広範囲に切除する手術や全しちゃうからです。

長寿雑学

154

